



# 人らしさ展

みてないことへの寄り道

2020年

10:00-17:00

9月19日 土 → 22日 火

アクタ西宮 東館2階中央ひろば

主催:「こころアート表現★プロジェクト」(事務局:武庫川女子大学 精神保健福祉研究室)  
本イベントは、JST-RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」研究開発領域で採択されたプロジェクト「トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築 (研究代表者:大岡由佳)」の一環で行います。

お問い合わせ/事務局:武庫川女子大学 精神保健福祉研究室 ✉ [jtraumainformed@gmail.com](mailto:jtraumainformed@gmail.com)



国立研究開発法人  
科学技術振興機構  
Japan Science and Technology Agency



社会技術研究開発センター  
Research Institute of Science and Technology for Society

This work was supported by JST RISTEX Grant Number JPMJRX17G6, Japan.

オンライン  
展覧会開催  
9月19日(土)▶30日(水)



# 忘れられない、こころの体験をアートに。

米国では2人に1人、日本では3人に1人が、18歳になるまでに逆境的体験(※)といわれるトラウマを一つ以上は経験しているという。

また、大切な人の不慮の死は10人に4人が、性的被害は7人に1人が経験している。施設等で隔離や拘束をされれば、それは人権侵害の名の下のトラウマである。しかし、それらの出来事の影響を、言語化できる人は稀(まれ)だ。言葉にならないからこそ、“心の傷(トラウマ)”となっている。

私たちは日々様々なことに遭遇するが、それらの記憶は寝ているうちに脳内で整理され、次の日を迎える。しかし、トラウマとなる経験は、その記憶が脳内でうまく処理できない。そして、時に、膿(うみ)が疼(うず)き始めるように、その不快な記憶で頭がいっぱいになり、それが生きづらさを生み出す。

いま世界的なトラウマともいえるコロナ禍にいる私たちは、日々、不安を煽(あお)られる。そこに恥の感情や差別、偏見などが見え隠れする。

人々が何となく生きづらい、敏感であらねばならない時代に置かれているからこそ、今まで見てこよとしなかった、あるいは軽視してきたもの「心のトラウマ」に想いを寄せることが出来るかもしれない。

代表 大岡由佳

※逆境的体験：虐待やネグレクト、家族内のDV・離婚、家族の精神疾患、物質乱用、収監等の経験がある場合を指す。近年、これらの経験のよる心身への害が知られるようになってきている。

## 現地展覧頂く際の諸注意

- ・この展覧会は、感情的な苦痛や痛みを示す作品を多く含んでおり、人々のトラウマ体験を理解するのに役立ちます。動揺することがあれば、家族や友人、または専門家に相談(注1)してください。動揺されたくない場合は、予め観覧をご遠慮ください。
- ・新型コロナウイルスの感染防止のため、マスク着用に加え、混雑を防止するための入場の制限等をさせて頂く場合がございます。
- ・発熱、その他風邪などの症状がある方は観覧をお控えください。オンライン展覧(表面QRコードから入場可)をご利用ください。

## 「こころアート表現★プロジェクト」とは

本プロジェクトは、オーストラリア・DAX CENTRE\*の元館長・オイゲン・コウ博士の活動からヒントから得て、自分たちなりのやり方を模索し、2019年に“地域”の中で開始した取組です。“あなたにとっての人生とは?”と人々に問いかけ、こころのなかにある自分の困難な経験や生きづらさを絵で表

現して頂いてきました。安全安心な空間で、言語化できない記憶に個々が向き合うこと、その過程で、自分に秘められた力に気づき、新たな一歩を踏み出すこと、そんな人々のエンパワメントを応援する営みです。

※芸術や創造力を通して心や精神疾患・トラウマの理解を深める取組を行なっている。

大正大学地域構想研究所  
客員教授

### 竹島 正

作品をみているとすこし苦しくなります。作者が、作品をとおして、あなたに語りかけてきます。その声はまっすぐで、遠慮がありません。これらの作品は、誰でもトラウマを背負って生きていることを、それが生きる力にもなることを伝えてくれます。よろしければご来場ください。作品を見た後は一息入れてください。

兵庫県立尼崎総合医療センター  
小児科科長

### 毎原 敏郎

小児科医として子ども虐待防止に関わっていますが、小児期のマルトリートメント(不適切な養育)が将来にわたってこれほど深刻な影響を及ぼしていることを今回初めて知ることができました。皆さんが絵画という方法を使いながら、勇気を持ってご自分の過去に向き合われていることに心から敬意を表します。

アーティスト  
担当ファシリテーター

### 高濱 浩子

このプログラムを思い返すと、言葉にならないことばかり。なぜだろう?きっと命の声に出会ったからだと思う。優しく、尊い、命の叫び。安心できる場が、どれだけ人を救うだろう。救われた命は、何を創造するだろう。

NPO 法人ハートフル輪っふる施設長

### 角野 太一

今回描いてくださっている表現を見て、言葉だけではなく、そして言葉ではつながらにくい語りがあるように思いました。人が想いを表現するその方法は様々であると改めて自分の中で確認できました。そして、語らないと、自らの想いにふたをしてしまう私に気づくことができました。表現する自由は年齢性別を分け隔てなく確保されているものだと思えます。皆さんはどのように感じて頂けるでしょうか。これから少し寄り道をしながら皆さんと感ずることができればと思います。

## 絵を描いた当事者の声

「自分で扱いきれない悲しみや苦しみを言葉にすることは難しいけれど、絵にすると素直に表現できたように思う。」

「描き初めは、先が見えない感じで、すごくつらかったです。しかし、描き進めていく中で、自分の中に、“つらい”気持ちと、“希望”が共存していることに気づきました。言葉にはできない不思議な感覚でした。」

## 展覧会場



### アクタ西宮 東館2階中央ひろば

〒663-8035 兵庫県西宮市北口町1番



電車でお越しの  
お客様へ

阪急西宮北口下車北出口(2階)より通路デッキに沿ってお進み頂くと円形デッキに出ます

## 展覧会に関するお問い合わせ

### 「こころアート表現★プロジェクト」事務局

(事務局:武庫川女子大学 精神保健福祉研究室 担当:大岡)

電話・FAX 0798-45-9821 ※展覧会中は不在



(注1)専門家に相談したい場合のヘルプライン jtraumainformed@gmail.com にご連絡をください。 ※現地展覧会場では、現地スタッフ(10:00~17:00)にお尋ねください。